

観光立国のさらなる前進をめざして 提言要旨

～ 観光の地域分散・ワイド化を図り、新しいまちづくりを進めるために ～

2018年5月8日

日本商工会議所

1. 観光推進への課題

訪日外国人旅行者は年間2,869万人と順調に増加。日本人観光客も復調のきざしを見せ始める等、「観光立国」へ向かって堅調な歩みを進めつつある。しかし、国内の観光全般を見た場合、ここへ来て様々な課題の発現から、前途に困難が予見され、これらの解決に迫られている。即ち、観光に①地域による偏りが見られること、増加する②リピーター（内外ともに）の受入体制が不十分なこと、経済効果を受け止めるべき③観光産業がその機能を十分に果たしていないこと、さらに、④観光の安全対策の緊急性が指摘される。

2. 今後の観光施策とその展開

(1) 汎日本（オールジャパン）観光へ（観光の地域分散等によりバランスのとれた観光へ）

大都市圏、特定観光地への集中等、地域的偏り、また、ホテル等の一部宿泊施設への需要の偏り等で地域、施設によっては深刻な需給逼迫が見られるに至っている。このため、観光の地方分散、利用度の低い宿泊施設の有効活用等が緊急課題である（観光による地方創生の実現への期待が大きい）。このため観光の地域的偏りの是正即ち「汎日本（オールジャパン）観光」の展開が必要である。

（前提）交通インフラ整備（観光回廊交通路、地方空港、地方港湾の整備、地方での総合観光交通システム構築 等）

(2) ワイドな観光へ

リピーターに関わる受入体制を強化するとともに、より量・質ともに充実した観光とするためには観光資源の見直しと共に様々な「観光」対象に、多様な観光手法で接する等、観光の幅を広げたワイドな観光を提案していく必要がある。

（前提）テーマ別（産業観光等）観光の推進（視点）

新手法による観光の提案（手法）、24時間観光の展開（時間）等

(3) 観光産業の革新へ（魅力ある新しい観光産業へ）

観光を地域の活性化ないしは国の経済成長に結ぶためには、その効果の受け止め、ないしは拡大をはかる（観光の経済効果を国内、地域に吸収する）観光産業が、その競争力を強化して十分な機能を果たすべく、遅れがちな観光産業の経営近代化、効率化の実現が急務である。

(前提) 観光人材対策 (人手不足解消、人材育成)
IT・IoT 導入による経営近代化・効率化
事業 (産業) 間連携による観光システム産業の構築 等

(4) 安全・快適な観光実現

観光の施策以前ともいふべき基盤は「安全、安心」である。とくに地域ごとに予想される大規模災害発生時の観光客の避難、誘導、保護対策の確立、交通・宿泊等の観光関連施設の安全確保は、緊急の課題である。同時に、観光をとりまくソフト面の諸対策推進等により、安全快適な観光を約束する「もてなしのまちづくり」こそ急務である。

(前提) 観光交通機関、宿泊等関連施設の安全総点検と対策確立、滞在利便性確保 (Wi-Fi 環境整備、キャッシュレス体制等)、住民の理解と協力

3. 施策推進の留意点

上記施策推進のためには、官民相互、地域間、国際間等の関係機関・団体の幅広い①「連携協働」とともに、②「観光情報システム」確立による適確な情報発受信体制の整備、観光行動の指針となる③「観光統計」の整備等にとくに留意、注力して進める必要がある。

また、2019年以降に徴収が予定されている国際観光旅客税については、インバウンド需要への対応のみならず国内観光の振興にも使われるべきであり、特に観光客を各地域に分散させる施策に重点的に使われることを検討されたい。

以 上